

第44回運営推進会議

看護小規模多機能型居宅介護事業所るぴなす

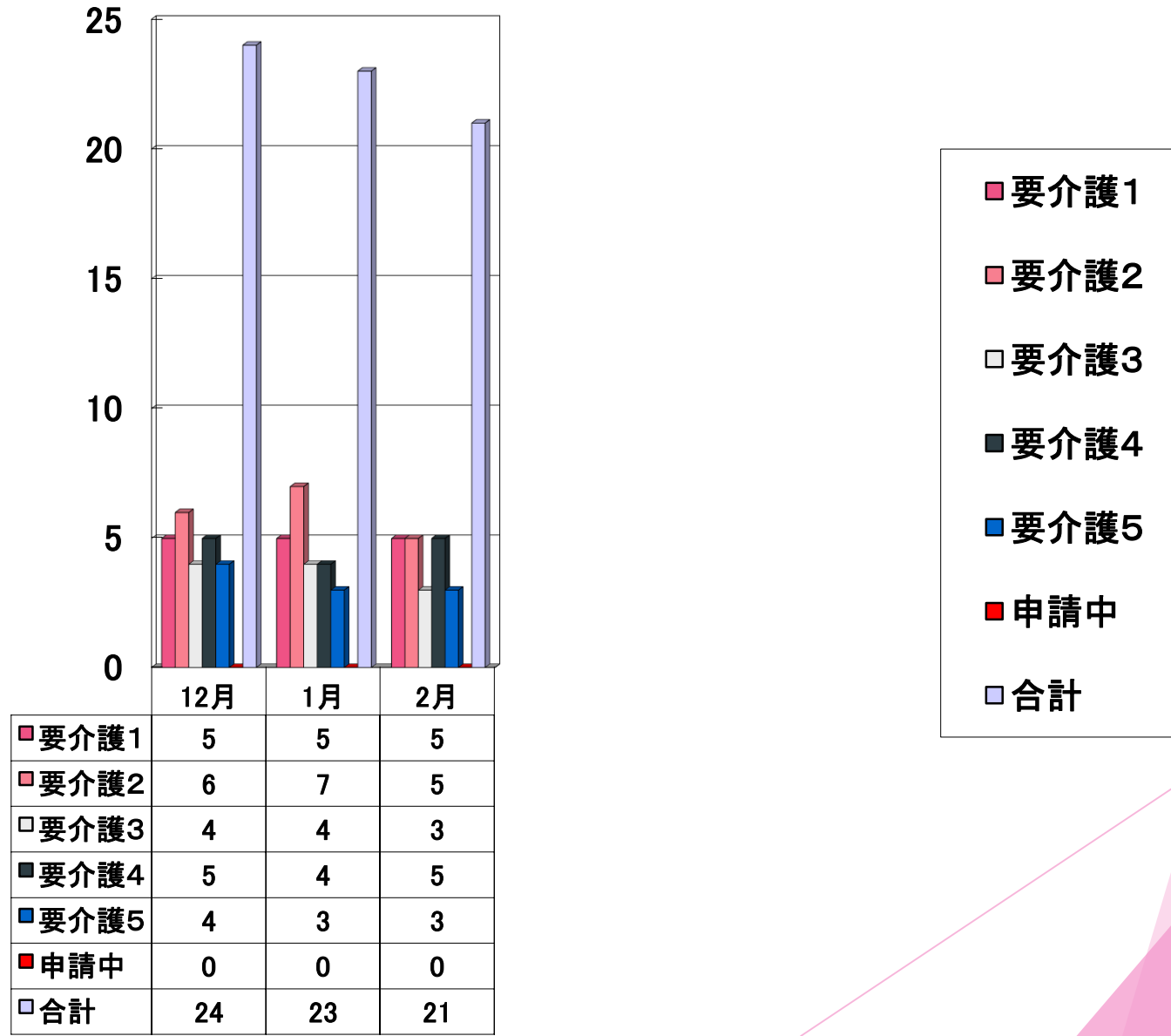
令和2年1月29日

第44回運営推進会議

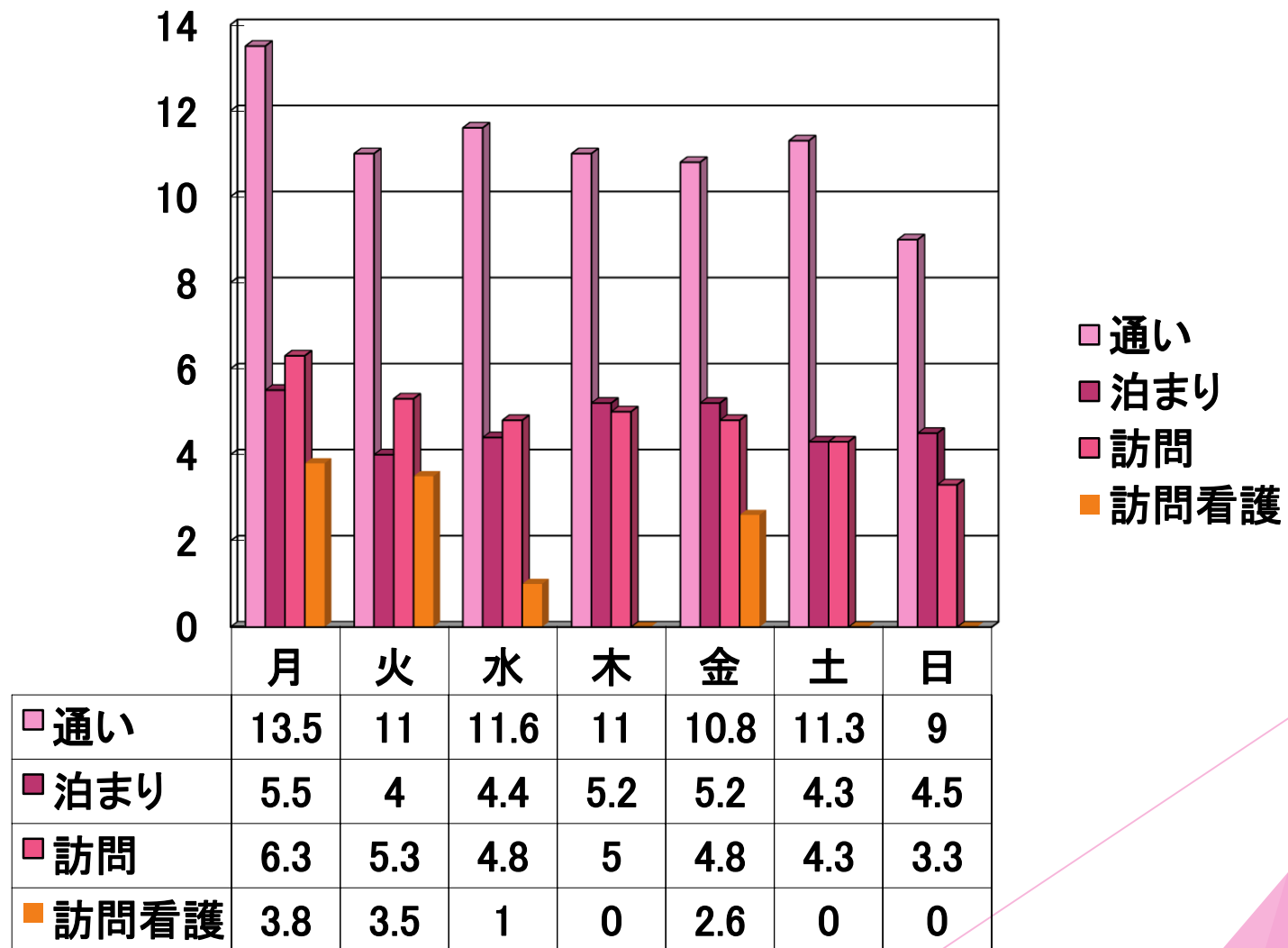
- るぴなすご利用者現況報告
- 看取りの報告
- サービス評価
- 活動報告
- その他質疑応答・要望等

登録利用者数

令和元年12月～令和2年2月



令和2年1月 曜日別利用者数



看取りの報告

◆U・A様 女性 87歳 要介護4
アルツハイマー型認知症など

H26.10月より毎日泊まり利用。帰宅は出来なかったが、二人の娘様達がよく面会に来て下さり、穏やかに生活されていた。

白い便，オレンジ色の尿，発熱，黄疸が出始め、R1.11/19より抗生剤服用。その後食事の飲み込みができない，発熱を繰り返し、黄疸強まる。

12/4午前中まで調子良く、食事し立位もとれていたが、午後嘔吐、夕方より発熱。12/5声かけに目を閉じたまま、熱39.0℃。12時過ぎより努力呼吸。

ご家族大勢、面会に来られる。20:14永眠。

看取りの報告

◆I・K様 女性 72歳 要介護2 独居
後腹膜胚細胞腫瘍、骨転移癌、癌性疼痛など

海外在住の次女様が泊まりこみ、市内在住の長女様と一緒に世話されていた。

R2.1/8より訪問看護を利用。食べると嘔吐し、食べれない状態。吐血あり。薬を調整し、嘔吐や苦痛を和らげる。1/14 0.02永眠。

看取りの報告

◆T・H様 女性 97歳 要介護3 独居
うっ血性心不全、脳血管性認知症、変形性腰椎症

三人の娘様が協力され、週に1泊帰宅されていた。
徐々に食事の飲み込みや水分摂取が難しくなっていた。呼吸が苦しい
事が増え、1/9在宅酸素開始。

1/13朝食を時間かけて食べ、昼過ぎより努力呼吸。娘様達交替で付き
添われる。本人帰宅希望され、あと少しと思われ1/14帰宅。1日4回訪問。
自宅で娘様達付き添われ最後の時間を過ごされる。

1/25 9:51永眠。

サービス評価

看護小規模多機能型居宅介護事業所は、運営推進会議をおおむね2月に1回以上開催することと規定されているがサービスの改善および質の向上を目的として、自ら提供するサービスについて評価・点検（自己評価）を行うとともに、自己評価結果について、運営推進会議等において第三者の観点からサービスの評価（外部評価）を1年に1回以上行う。

サービスの質の評価の客観性を高め、サービスに質の改善を図ることを目的とし、結果の公表を行うことが義務付けられており、利用者に対するサービスの提供にあたり、職員に対し、十分意識付けを図ることが求められている。

サービス評価

スタッフ個別評価



事業所自己評価



外部評価



評価の公表

- これまでの取り組みやかかわりを自らに向き合い、振り返ります。個人作業（11月中旬まで）

- 各自が取り組んだ「スタッフ個別評価」を持ち寄り、全体で話し合い、それぞれの考えや実践、項目に関する捉え方の違いなどを話し合い、その中から改善の方策を考えます。事業所のコミュニケーションの場ともなります。（12月上旬～下旬）

- 運営推進会議で話し合います。（2月～3月）
「できている」「できていない」という結果のみで判断するだけでなく、事業所が真摯に自らの取り組みを振り返り、質の向上を図っているか確認します。
地域が日頃感じていることと事業者自身考えることとの違いについて話しあい、事業所の課題や今後の方向を見出します。（3月）

サービス評価のポイント

- ◆スタッフ全員が自らを振り返り、自己評価を行うこと（スタッフ個別評価）
- ◆スタッフ個別評価とともに、事業所全体で振り返り、話し合い、共有すること（事業所自己評価）
- ◆運営推進会議で、事業所自己評価の結果を報告し、かつ、地域からの意見を頂き、運営に反映させること
- ◆自己評価及び運営推進会議による評価を毎年繰り返しながら、質の向上を図っていくこと
 - ⇒ 評価をスタッフ全員で行い話し合うことでチーム作りになり、提供しているサービスの確認になる
 - ⇒ 地域の方々より事業所に対する理解が促進される
 - ⇒ 外部評価を行う運営推進会議に行政や地域包括支援センターが参加することで、理解が促進される

理念

- ◆居心地の良さと居場所の良さを提供する
- ◆居心地の良さとは家族、居場所の良さとは家～ご家族の代わりに居心地の良さと居場所の良さを提供する
- ◆一人暮らしでも、高齢世帯でも、認知症でも、がんの末期でも住み慣れた地域で最期を生きることができる
- ◆そのためには、医療、介護、福祉、行政の連携を図り、ご利用者様、仲間そして自らを大切にする

目標

ご利用者の

- ◆希望が叶う
- ◆楽しく過ごせる
- ◆笑顔が増える
- ◆尊厳が尊重される
- ◆その人らしくいられる
- ◆安心して穏やかに過ごせる
- ◆楽しみ、張り合いができる
- ◆社会の一員として生活できる

中間目標

ご利用者と関わる時間が増える

ここに居るみんなが、気持ちよく居ることができる

地域との関わりが増える

取り組み

希望をくみ取り叶える

業務の見直し

情報共有の方法の検討

接遇スキルの向上

職員同士のコミュニケーションがうまくとれるようにする

事故防止の検討
実技研修の実施
伝達研修の充実

業務の見直し

地域の行事やコミュニティへの積極的参加

運営推進会議の活用

◆地域との関わりが増える

- ・ 運営推進会議の活用
- ・ 公園の草むしりへの参加
- ・ 桜が丘プレミアムフライデーへの参加
- ・ るぴなす祭り 自治会、子ども会との共同開催
- ・ るぴなす避難訓練 自治会住民の皆さんから参加
- ・ 夜の茶の間開催
- ・ コミュニティースペースの開放（自治会、子ども会など）
- ・ 山潟中学職場体験受け入れ
- ・ 京王幼稚園園児来所、交流
- ・ 地域の方から畑作業の支援
- ・ 医療、介護専門学校からの実習生受け入れ

～地域との関わり 地域共生社会に向けて～

- 参加と協働による地域デザイン

地域の実情に合わせた、支える側、支えられる側の関係性を越えた話し合い

- 地域包括支援センターのブラン奇的存在

我が事、丸ごと地域共生社会実現のための拠点

第44回運営推進会議

看護小規模多機能居宅介護事業所るぴなす

開催日時：令和2年1月29日(水) 18:00～

出席者：自治会長・目黒様，民生委員・大嶋様，地域包括支援センター山潟・小石様

看護小規模多機能ご家族

法人代表・斎藤先生，法人総務・物江，看護小規模管理者・小林

1 斎藤先生より挨拶

- ・利用者の方3名が亡くなり、自宅で看取りができた方もいました。
- ・地域包括ケア研究会の報告書が出て、地域は子どもが少なく小学校は統合され遠くなり、地域の定義が変わってきている。包括支援センターでもカバーできず、小規模多機能をブランチにして国は舵をきっていく。より住民の近い所で困り事を何とかしていく。今日はサービス評価です、看護小規模多機能はわかりにくいですが、あくまでも地域で助け合いながらという大事な会議となります。

2、ご利用者現況報告

○登録利用者数

○曜日別利用者数

毎日利用されていた方が減り、通い・泊まりの人数が減っている。自宅にいたい方へ、訪問を重視した支援が増えている。訪問では、食事のお届け，掃除，洗濯，買い物，血圧測定，服薬確認，軟膏塗布など、それぞれその方の生活に必要な部分を支援している。

3、看取りの報告

- ・ 3名

4、活動報告

○行事、日頃の様子をパワーポイントで写真を見て頂きながら報告

- ・ 家族交流会
- ・ クリスマス会
- ・ 大晦日、お正月
- ・ 桜ヶ丘プレミアムフライデー
- ・ お誕生会

5、サービス評価（外部評価）

○事業所評価をもとに評価いただく。

【№10】・災害について、自治会役員も自分の家もあり、要支援は20名。災害時の事は結論が出ないが、訓練を繰り返していく事が大事。学校、病院、福祉施設は訓練が必要。地震も多く、実際起きたら難しいが、連携をとりながら訓練していきたいと思う。

・福祉避難所に登録はしていないが、受け入れの場所、拠点となると良いと思う。道路から70cm高くなっている。そこから次の場所を考える。高志中学校まで行かずとも近くのマンションや自宅の二階に上がるとかでも良いのでは。

・他事業所を参考にリスク管理をしていかなければならない、連絡方法、備えは十分でないので、整備していかなければならない。

- 【No9】・他事業所の運営推進会議では、事故・ヒヤリハットの紹介があるので、やってもらおうと良いと思う。事故とヒヤリハットの境界線が事業所によって違う。
- 【No14】・立てているサービス計画を示すとイメージが付きやすい。
- 【No16】・ケースカンファレンスでは担当者中心に介護計画の取り組み状況を評価、見直している。ケースカンファレンスとミーティングを月1回ずつ、時間を決めて行っているが、即時性と柔軟性で、必要な事はそこですぐ話し合い決めている。
- 【No33】・大変良くできていると思う。地域との交流として、夜の茶の間では、色々な人と関わる事ができ、毎回楽しませてもらっている。行きたい人男性も多く、高志以外の人も、お酒を飲めない人も参加している。

6、地域との関わりについて



ありがとうございました(*^_^*)